

# せんとうき 館報 尖頭器



「尖頭器」とは主に旧石器時代に使われた狩猟具です

旧石器ハテナ館

史跡田名向原遺跡

旧石器時代学習館

TEL042-777-6371

平成22年1月25日

【第3号】



## 来館者数5万人達成！体験メニューをさらに充実！



平成21年4月に旧石器ハテナ館が開館し、12月12日に延来館者数が5万人を達成しました。この来館者数は、当初の予想をはるかに超える数字で、お越しいただいた皆様にお礼を申し上げます。

旧石器ハテナ館は、国指定史跡田名向原遺跡で発見された国内最古といわれる約2万年前の住居状遺構を中心に、旧石器時代から平安時代まで学べる展示施設です。

展示施設は多くの方がご覧いただいたことと思いますが、このたび、より多くの方に親しんでいただけるよう体験学習メニューをさらに充実しました。次は、ぜひ体験学習にも参加していただき、楽しい思い出と一緒に自分で作った作品をお土産として持ち帰ってみてはいかがでしょうか。

今後も、多くの方に田名向原遺跡への理解を深めてもらえるよう取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 作品展

昨年末、旧石器ハテナ館では一年間の活動成果の発表として作品展を行ないました。今回の作品展では、体験学習の作品のほか、利用団体の作品も展示すると共に、中学生による文化財ポスター展も併せて開催し、多くの見学者にハテナ館における活動を知っていただくことができました。

短い期間にも関わらず、多くの方に見学していただき、大盛況のまま作品展を終えることができました。協力していただいた団体・関係者の方々へ厚くお礼申し上げます。

### 【作品展の様子】

↓作品展会場に入ると、まずはヘラジカがお出迎え。皆さん、ヘラジカの前で写真を撮パシャリ！！



↑土器や石器、勾玉など、みんなの芸術作品がズラリと並んでいます。

作品を提供していただいた皆さんに感謝！感謝！

市内の中学生が描いた文化財保護ポスター。作品展に併せて合計93点もの作品を展示しました。

みんなかなりの力作揃い！！

↓



田名を中心に活動されている「あしたば句会」の皆さんの作品です。遙か昔の旧石器時代に思いをはせ、素晴らしい作品を詠んでいただきました。



教職員「土器の会」の作品です。粘土作りから始まり、長い時間をかけ製作されました。製作者の思いが込められている素晴らしい作品でした。



# 【12月13日開催】石槍・石斧体験

昨年12月13日には、実際に石槍・石斧を使用した体験学習を開催しました。

まずは投げ方の練習→  
なかなか真っ直ぐ槍が  
飛んでいきません。  
昔の人達の凄さを肌で  
感じました。



磨製石斧の使用 →  
力の入れ加減が難し  
い。うまく木を削れ  
るかな??



←ヘラジカに狙いを  
定めて…当たれ!!  
投げ方もバッチリ決  
まって気分はまさに  
旧石器人。



← 奮闘中!!  
道具を使いながら、効  
率の良い方法を探っ  
ていきます。  
昔の人は凄いな!!

## 【旧石器ハテナ館体験学習メニューのご案内】

体験学習	所要時間	申込方法	定員	参加費
勾玉作り	約2時間	予約	5人～20人程度	300円
石器作り	約2時間	予約	10人～20人程度	無料
矢じり作り	約1時間	予約	10人～20人程度	100円
弓矢作り	約1時間	予約	5人～10人程度	無料
石槍・石斧体験	約1時間	予約	5人～10人程度	無料
土器・埴輪作り	約2時間	予約	5人～10人程度	300円
鹿角アクセサリー作り	約1時間	予約	5人～10人程度	無料
火起こし体験	約30分	随時	3人～10人程度	無料

旧石器ハテナ館では、各種体験学習も行なっています。ご家族・ご友人お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

※火起こし体験以外のメニューに関しては事前申し込みが必要となります。お申込みの際には直接当館までご連絡下さい。

※表記されている定員は目安となっております。

## ヘラジカ製作奮闘記 学習指導員 佐原 慧

去年の暮れ以降、ハテナ館に来館された方はすでにお気づきかと思われませんが、当館入口にはヘラジカが居座っております。当然本物ではないのですが、なぜヘラジカがこんな所にあるかと申しますと、今月の館報にも一部取り上げております、石槍・石斧実験の体験学習の際に使用されたものです。

ことの発端は、体験学習で実際に槍を投げようということになり、的が必要になりました。当初は簡単な的を用意するつもりでしたが、それでは面白さに欠けると思い「じゃあ立体的なヘラジカを作ろう」と、なんとも短絡的な考えのもと、製作に取り掛かりました。

実際に製作してみるとなかなかうまくいきません。ある程度の強度が必要になるため木材で骨格を作っていくのですが、しっかり固定するのに四苦八苦。なんとか骨格は完成し、次は本体に大量の稲藁をつけていくの

ですが、この稲藁がなかなか厄介な代物で、作業中ほこりが凄くクシャミが止まりません…。ようやく稲藁をつけ終わり、ついに最大の難関、角の製作に取り掛かります。ヘラジカの出来は角で決まると言っても過言ではありません。またもや木枠を作り、稲藁を巻いて、最後に頭に固定して、ようやく完成。しかし立派な角にしすぎたため、外に出そうにも角が扉に引っ掛かり出せません。結局一度分解することに…。

さまざまなトラブルに巻き込まれながらも完成したヘラジカは無事、容赦なく降りかかる石槍にも耐え、その役目を果たしました。

現在、ヘラジカは入り口にて来館される方々をお出迎えしております。ハテナ館にご来館の際は、ヘラジカの雄姿をご覧ください。

